

ガバナンスの欠如：

最近のオリジンに起こったいくつかの出来事で、オリジンのとりわけ経営陣のガバナンスが問われている。もともと30年も続く企業でないながら、サークル的なものの出自故か、「管理」とか「統治」とかが、なかなか身に付かない。セキュリティを含むリスクマネージメントの構築をソフトハウスとして当然にも確立せねば、お客様に対する責任を果たせない。なんとかせねばと苦吟している。が、お客様から指摘された「オリジンのガバナンスの欠如」とは果たして、ちゃんとしたルールや管理、監督の仕組みや罰則が無いという指摘なのだろうか？つまり「上が下をチャント管理し、過ちをチェックしていない」という事なのだろうか？逆に言えばそれができればトラブルはなくなるのだろうか？とふと疑問に思った。大概過ちは組織上位の人間ほど犯しやすい。残念ながらわが社も例外では無い。

組織下位の人は多かれ少なかれ否応なく、なにがしかのチェックにさらされる。しかし組織上位の人は時に自分の決めたルールさえ無視してしまう事があり、またそれが可能である。とすれば「ガバナンス」の強化とは会社での上から下への「管理、統治」の強化ではなく、何かもつと他の方法であるのではないかと感じた。とりあえず、インターネット上で「ガバナンス」という言葉を調べて見ると、意外な（私にとっては…）事を発見した。

がばなんす【ガバナンス】
Governance

統治のこと。「ガバメント」とは対照的な統治として位置づけられる。ガバメントは政府が上の立場から行なう、法的拘束力のある統治システムである。一方、ガバナンスは組織や社会に関与するメンバーが主体的に関与を行なう、意思決定、合意形成のシステムである。

清野吉光氏のコラム 第33回

団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株式会社サイト創立、現取締役会長。2007年タクシアナスト代表取締役社長に就任。現在に至る。



「GE式
ワークアウト」

これは経営学にとつては常識的な事かも知れないが、私にとつては目からうろこがとれるような考え方である。あのお客様が指摘して下さったのは「統治の欠如」ではなく、オリジンのお客様と経営幹部と社員の人の

つまりガバナンスは、株主や経営陣による企業の管理、統治という意味合いも含まれてはいる。だが、企業の利害関係者（株主、経営者、従業員、取引先など）の主体的な作用による、意思決定、合意形成のシステムが、本来の意味に近い。

「主体的関与を行なう、意思決定、合意形成のシステムの欠如」なのだ。結果、お客様とお客様に直接関与する社員そして経営幹部との間に断絶が生じ、お客様の不満と社員の焦燥と経営幹部の鈍感さが生じていた。この鈍感さは、敏感にならねばと念ずるだけでは克服できないし、ましてやルールやツールの導入だけでは無くなるものではない。顧客と社員と経営者のそれぞれの「主体的な作用による意思決定、合意形成のシステム」が必要だからである。通常会社組織では役員会が意思決定をし、社員の人の

「主体的関与を行なう、意思決定、合意形成のシステムの欠如」なのだ。結果、お客様とお客様に直接関与する社員そして経営幹部との間に断絶が生じ、お客様の不満と社員の焦燥と経営幹部の鈍感さが生じていた。この鈍感さは、敏感にならねばと念ずるだけでは克服できないし、ましてやルールやツールの導入だけでは無くなるものではない。顧客と社員と経営者のそれぞれの「主体的な作用による意思決定、合意形成のシステム」が必要だからである。通常会社組織では役員会が意思決定をし、社員の人の

1992年4月3日

オリジン第2次創業の志

会社理念 お客様（社会）の深いニーズと結び付き、お客様（社会）の抱える問題を徹底して、解決する自己革新的精神を築き上げる。

戦略方針 業種に特化し、通信網、高速道路網の発達に伴う中で、ハードウェアに限定せず、ソフトウェアの開発、会社内部を徹底して、自己啓発し、職能化し、システムの方によって付加価値を作り出す。企業文化の重視

営業の原則 コミュニケーションを重視し、お客様（社会）の深いニーズと結び付き、お客様（社会）の抱える問題を徹底して、解決する自己革新的精神を築き上げる。

社員 社員は会社の基礎であり、社員の自己革新と付加価値を生み出す原動力である。

役員 役員はオリジンの付加価値を生み出すシステムと土壌の創造とメンテナンスに責任がある。その役割を果たすために権限が与えられる。故に幹部が忠実に従うための自己規律が必要である。

ソフトハウスの付加価値の源泉

- お客様のニーズの把握能力
- お客様の抱える問題の解決能力
- ソフトウェアの生産性
 1. 体系的な標準化、モジュール化
 2. 工務管理能力
 3. MZ、MJ、Mの排除
 4. 高品質のソフトによる手離れのよさ
- お客様への指導能力
 1. 信頼される事
 2. 問題解決能力
 3. こそという場には体を張る
- 継続的な学習

Total Solution By SYSTEM ORIGIN

